

対象校No. 138
注4

学校コード F131110109417
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前相談

注2
鳥取大学大学院 工学研究科 工学専攻 (博士後期課程)

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人鳥取大学
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	総務企画部総務企画課
職名・氏名	ハセガワ ケイジ 課長 長谷川 敬司
電話番号	0857-31-6745 (内線: 2520)
(夜間)	0857-31-6745 (内線: 2520)
e-mail	ma-seisaku @ml.adm.tottori-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称: ◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合: 「〇〇大学」
- 学部の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合: 「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合: 「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

工学研究科

＜工学専攻（博士後期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人鳥取大学

(2) 大学名

鳥取大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒680-8550

鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ナカジマ ヒロミツ) 中島 廣光 (平成31年4月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
研究科長	(サカグチ ヒロキ) 坂口 裕樹 (令和3年4月)		
専攻長	(マツオカ ヒロシゲ) 松岡 広成 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)

令和6年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和6年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
工学研究科 工学専攻 (博士後期課程) 博士(工学)	工学関係	3年	12人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	36人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期														
A 入学定員	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	12	()	12	()	12	()	春季入学以外の学期区分を設ける予定	0.97倍	一倍	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	12	3	9	6	7	()				
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	12	3	9	6	7	()				
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	12	3	9	6	7	()				
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	12	3	9	6	7	()				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-			1.25		1.25		0.58					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
- ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」に「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
- ・ 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-			12	3	9	6	7		
	[-]	[-]	[-]	[-]	[]	[]	[4]	[1]	[5]	[1]	[2]	[]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	(-)	(-)	(-)	()	()	()	
2 年次			-	-	-	-	-	-	12	3	9	6	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[4]	[1]	[5]	[1]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	-	-	10	3	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[4]	[1]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	
4 年次							-	-	-	-			
							[-]	[-]	[-]	[-]	[]	[]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	
計	-	-	-	-			15		30		35		
	[-]	[-]	[-]	[-]	[]	[]	[5]		[11]		[13]		
	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	(-)		(-)		(-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	12 人	0 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	(記入例) 就学意欲の低下(5人)、他の教育機関への転学(2名) [就職(1人)、除籍(2人)]
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	0 人	0 人	
令和5年度	24 人	1 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	1 人	0 人	業務多忙, 仕事の都合
			令和5年度	0 人	0 人	
令和6年度	33 人	0 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合計		1 人		1 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{12} = \boxed{0} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{24} = \boxed{4.16} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{33} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工学研究科 工学専攻（博士後期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	※※※	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
データサイエンス科目	データサイエンス特論Ⅰ	1~2		1		2						
	データサイエンス特論Ⅱ	1~2		1		1						
	データリテラシー特論	1~2		1		1						
	小計(3科目)	-	0	3	0	2	0	0	0	0		
実践科目	知的財産マネジメント特論	1~2		1								1
	ベンチャービジネス特論	1~2		1		1						
	工学教養ゼミナール	1~2		1		44	10					1
	工学実践ワークショップ	1~2		1		44	10					1
	工学実践プロジェクト	1~2		1								1
	学外連携実習	1~2		1		44	10					1
	小計(6科目)	-	0	6	0	44	10	0	0	0	0	3
専門科目（情報社会システム領域）	数理情報科学特論	1~2		2		1						
	計算機ソフトウェア特論	1~2		2		1						
	最適化アルゴリズム特論	1~2		2			1					
	ネットワークセキュリティ特論	1~2		2			1					
	自然言語処理論	1~2		2		1						
	視覚メディア処理論	1~2		2			1					
	知能システム特論	1~2		2		1						
	映像情報計算特論	1~2		2			1					
	画像計測工学特論	1~2		2		1						
	機械翻訳特論	1~2		2			1					
	ヒューマンインタフェース特論	1~2		2			1					
	進化計算特論	1~2		2		1						
	情報システム工学特論	1~2		2				1				
	確率システム論	1~2		2			1					
	経営管理工学特論	1~2		2		1						
	社会システム工学特論	1~2		2		1						
	地域経営工学特論	1~2		2			1					
	交通システム工学	1~2		2		1						
	地域計画学特論	1~2		2		1						
	防災システム論	1~2		2		1						
	沿岸防災工学	1~2		2		1						
	建築計画学特論	1~2		2			1					
	河川工学特論	1~2		2		1						
	流域土砂管理	1~2		2			1					
	地盤ダイナミクス	1~2		2		1						
	地盤情報システム工学	1~2		2			1					
	施工情報工学	1~2		2		1						
	岩盤物性特論	1~2		2			1					
	地震工学特論	1~2		2		1						
	固体地球科学特論	1~2		2			1					
	コンクリート工学特論	1~2		2		1						
小計(31科目)	-	0	62	0	17	13	1	0	0	0	0	

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	※※※	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
データサイエンス科目	データサイエンス特論Ⅰ	1~2		1		2						
	データサイエンス特論Ⅱ	1~2		1		1						
	データリテラシー特論	1~2		1		1						
	小計(3科目)	-	0	3	0	2	0	0	0	0		
実践科目	知的財産マネジメント特論	1~2		1								1
	ベンチャービジネス特論	1~2		1		1						
	工学教養ゼミナール	1~2		1		55	4					1
	工学実践ワークショップ	1~2		1		55	4					1
	工学実践プロジェクト	1~2		1		1						
	学外連携実習	1~2		1		55	4					1
	小計(6科目)	-	0	6	0	55	4	0	0	0	0	2
専門科目（情報社会システム領域）	数理情報科学特論	1~2		2		1						
	計算機ソフトウェア特論	1~2		2		1						
	最適化アルゴリズム特論	1~2		2			1					
	ネットワークセキュリティ特論	1~2		2			1					
	サイバーセキュリティ特論	1~2		2			1					
	自然言語処理論	1~2		2		1						
	視覚メディア処理論	1~2		2		1						
	知能システム特論	1~2		2		1						
	医用情報処理論	1~2		2			1					
	映像情報計算特論	1~2		2			1					
	光情報工学特論	1~2		2		1						
	画像計測工学特論	1~2		2		1						
	機械翻訳特論	1~2		2			1					
	ヒューマンインタフェース特論	1~2		2			1					
	進化計算特論	1~2		2		1						
	情報システム工学特論	1~2		2				1				
	確率システム論	1~2		2			1					
	経営管理工学特論	1~2		2		1						
	社会システム工学特論	1~2		2		1						
	地域経営工学特論	1~2		2			1					
	交通システム工学	1~2		2		1						
	品質マネジメント特論	1~2		2			1					
	地域計画学特論	1~2		2		1						
	防災システム論	1~2		2		1						
	防災基盤情報工学特論	1~2		2			1					
	環境計画学特論	1~2		2		1						
	沿岸防災工学	1~2		2		1						
	建築計画学特論	1~2		2		1	4					
	河川工学特論	1~2		2		1						
	流域土砂管理	1~2		2			1					
	治水砂防論	1~2		2			1					
	地盤ダイナミクス	1~2		2		1						
	地盤情報システム工学	1~2		2			1					
	施工情報工学	1~2		2		1						
	岩盤物性特論	1~2		2			1					
	地震工学特論	1~2		2		1						
	固体地球科学特論	1~2		2			1					
	コンクリート工学特論	1~2		2		1						
	空間情報工学	1~2		2			1					
小計(39科目)	-	0	78	0	20	16	1	0	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	記号年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教	准教	講	助	助	
総目	特別研究	1~3	-	-	-	44	10		11		1
目合	小計(1科目)	-	-	-	-	44	10	0	11	0	1
合計(96科目)		-	0	181	0	44	39	5	11	0	5
卒業要件及び履修方法											
<p>工学研究科工学専攻(博士後期課程)に3年以上在学し、データサイエンス科目および実践科目から2単位以上(うち1単位以上はデータサイエンス科目から修得すること。)、専門科目から6単位以上、合計10単位以上を修得すること。かつ、研究内容に応じた実践的教育、研究の計画と遂行に必要な知識や技能、博士学位論文作成等を指導する科目として特別研究を履修し合格するとともに、学位論文(博士)の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>ただし、在学期間に関して、特に優れた研究業績を上げた者として工学研究科委員会において認められた者については、次のとおりとする。</p> <p>①修士課程に2年以上在学し、当該修士課程を修了して入学した者及び修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められて入学した者にあつては、1年以上。</p> <p>②修士課程において特に優れた業績を上げ、2年未満の在学期間で当該修士課程を修了した者にあつては、当該修士課程における在学期間を含み3年以上。</p>											

科目区分	授業科目の名称	記号年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教	准教	講	助	助	
総目	特別研究	1~3	-	-	-	55	4		5		1
目合	小計(1科目)	-	-	-	-	55	4	0	5	0	1
合計(110科目)		-	0	209	0	55	39	4	5	0	4
卒業要件及び履修方法											
<p>工学研究科工学専攻(博士後期課程)に3年以上在学し、データサイエンス科目および実践科目から2単位以上(うち1単位以上はデータサイエンス科目から修得すること。)、専門科目から6単位以上、合計10単位以上を修得すること。かつ、研究内容に応じた実践的教育、研究の計画と遂行に必要な知識や技能、博士学位論文作成等を指導する科目として特別研究を履修し合格するとともに、学位論文(博士)の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>ただし、在学期間に関して、特に優れた研究業績を上げた者として工学研究科委員会において認められた者については、次のとおりとする。</p> <p>①修士課程に2年以上在学し、当該修士課程を修了して入学した者及び修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められて入学した者にあつては、1年以上。</p> <p>②修士課程において特に優れた業績を上げ、2年未満の在学期間で当該修士課程を修了した者にあつては、当該修士課程における在学期間を含み3年以上。</p>											

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	記号年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教授	助教		
データサイエンス科目	データサイエンス特論Ⅰ	1~2		1		2						
	データサイエンス特論Ⅱ	1~2		1		1						
	データリテラシー特論	1~2		1		1						
	小計(3科目)	-	0	3	0	2	0	0	0	0		
実践科目	知的財産マネジメント特論	1~2		1								1
	ベンチャービジネス特論	1~2		1		1						
	工学教養ゼミナール	1~2		1		54	5					1
	工学実践ワークショップ	1~2		1		54	5					1
	工学実践プロジェクト	1~2		1		1						
	学外連携実習	1~2		1		54	5					1
	小計(6科目)	-	0	6	0	54	5	0	0	0	0	2
専門科目 (情報社会システム領域)	数理情報科学特論	1~2		2		1						
	計算機ソフトウェア特論	1~2		2		1						
	最適化アルゴリズム特論	1~2		2			1					
	ネットワークセキュリティ特論	1~2		2			1					
	サイバーセキュリティ特論	1~2		2			1					
	自然言語処理論	1~2		2		1						
	視覚メディア処理特論	1~2		2		1						
	知能システム特論	1~2		2		1						
	映像情報計算特論	1~2		2			1					
	光情報工学特論	1~2		2		1						
	画像計測工学特論	1~2		2		1						
	機械翻訳特論	1~2		2			1					
	ヒューマンインタフェース特論	1~2		2			1					
	進化計算特論	1~2		2		1						
	情報システム工学特論	1~2		2				1				
	確率システム論	1~2		2			1					
	経営管理工学特論	1~2		2		1						
	社会システム工学特論	1~2		2		1						
	地域経営工学特論	1~2		2			1					
	交通システム工学	1~2		2		1						
	品質マネジメント特論	1~2		2			1					
	地域計画学特論	1~2		2		1						
	防災システム論	1~2		2		1						
	防災基盤情報工学特論	1~2		2			1					
	環境計画学特論	1~2		2		1						
	沿岸防災工学	1~2		2		1						
	建築計画学特論	1~2		2			1					
	河川工学特論	1~2		2		1						
	流域土砂管理	1~2		2			1					
	地盤ダイナミクス	1~2		2		1						
	地盤情報システム工学	1~2		2			1					
	施工情報工学	1~2		2		1						
	岩盤物性特論	1~2		2			1					
	地震工学特論	1~2		2		1						
	固体地球科学特論	1~2		2			1					
	コンクリート工学特論	1~2		2		1						
	空間情報工学	1~2		2			1					
小計(37科目)	-	0	74	0	19	17	1	0	0	0	0	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	記号年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教授	助教		
データサイエンス科目	データサイエンス特論Ⅰ	1~2		1		2						
	データサイエンス特論Ⅱ	1~2		1		1						
	データリテラシー特論	1~2		1		1						
	小計(3科目)	-	0	3	0	2	0	0	0	0		
実践科目	知的財産マネジメント特論	1~2		1								1
	ベンチャービジネス特論	1~2		1		1						
	工学教養ゼミナール	1~2		1		47	7					1
	工学実践ワークショップ	1~2		1		47	7					1
	工学実践プロジェクト	1~2		1		1						
	学外連携実習	1~2		1		47	7					1
	小計(6科目)	-	0	6	0	47	7	0	0	0	0	2
専門科目 (情報社会システム領域)	数理情報科学特論	1~2		2		1						
	計算機ソフトウェア特論	1~2		2		1						
	最適化アルゴリズム特論	1~2		2			1					
	ネットワークセキュリティ特論	1~2		2			1					
	自然言語処理論	1~2		2		1						
	視覚メディア処理特論	1~2		2			1					
	知能システム特論	1~2		2		1						
	映像情報計算特論	1~2		2			1					
	画像計測工学特論	1~2		2		1						
	機械翻訳特論	1~2		2			1					
	ヒューマンインタフェース特論	1~2		2			1					
	進化計算特論	1~2		2		1						
	情報システム工学特論	1~2		2				1				
	確率システム論	1~2		2			1					
	経営管理工学特論	1~2		2		1						
	社会システム工学特論	1~2		2		1						
	地域経営工学特論	1~2		2			1					
	交通システム工学	1~2		2		1						
	品質マネジメント特論	1~2		2			1					
	地域計画学特論	1~2		2		1						
	防災システム論	1~2		2		1						
	防災基盤情報工学特論	1~2		2			1					
	沿岸防災工学	1~2		2		1						
	建築計画学特論	1~2		2			1					
	河川工学特論	1~2		2		1						
	流域土砂管理	1~2		2			1					
	地盤ダイナミクス	1~2		2		1						
	地盤情報システム工学	1~2		2			1					
	施工情報工学	1~2		2		1						
	岩盤物性特論	1~2		2			1					
	地震工学特論	1~2		2		1						
	固体地球科学特論	1~2		2			1					
	コンクリート工学特論	1~2		2		1						
	空間情報工学	1~2		2			1					
小計(34科目)	-	0	68	0	17	16	1	0	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	記号	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	専任	非常勤	准	助	助		
専門科目 (資源・エネルギー領域)	触媒化学特論	1~2	2		1							
	グリーンケミストリー特論	1~2	2		1							
	応用分析化学特論	1~2	2		1							
	構造物理化学特論	1~2	2		1							
	無機固体化学特論	1~2	2		1							
	工業プロセス化学特論	1~2	2		1							
	エネルギー資源有効利用論	1~2	2		1							
	エネルギー変換化学特論	1~2	2		1							
	機能分子合成特論	1~2	2		1							
	分子集積化学特論	1~2	2		1							
	有機反応化学特論	1~2	2		1							
	高分子材料化学特論	1~2	2								1	
	機能性糖鎖化学特論	1~2	2									1
	生体機能分子化学特論	1~2	2		1							
	生物有機合成化学特論	1~2	2		1	1	1					
	構造生物化学特論	1~2	2		1							
	蛋白質構造機能特論	1~2	2		1							
	バイオプロセス特論	1~2	2		1							
	マリンバイオテクノロジー特論	1~2	2									1
	生物機能工学特論	1~2	2		1							
微生物遺伝子工学特論	1~2	2		1								
合成生物学特論	1~2	2		1								
有機材料化学特論	1~2	2		1								
バイオベース材料特論	1~2	2				1						
環境システム工学特論	1~2	2		1								
異相界面化学特論	1~2	2		1								
小計(26科目)	-	0	52	0	12	10	2	0	0	0	3	
専門科目 (先端科学技術領域)	材料組織制御工学特論	1~2	2		1							
	材料組織解析論	1~2	2		1							
	精密加工工学特論	1~2	2		1							
	材料プロセス工学特論	1~2	2		1							
	構造動力学特論	1~2	2		1							
	マルチボディダイナミクス	1~2	2		1		1					
	先端宇宙推進工学特論	1~2	2		1							
	宇宙構造物工学特論	1~2	2		1							
	先端設計工学	1~2	2		1	1						
	流体力学特論	1~2	2		1							
	数理生物学特論	1~2	2		1							
	分子気体力学特論	1~2	2		1							
	ナノシステム特論	1~2	2		1							
	飛行体工学特論	1~2	2		1	1						
	原動機燃焼工学特論	1~2	2		1							
	風車工学特論	1~2	2		1							
	プラズマ物理学特論	1~2	2		1							
	ロボティクス特論	1~2	2		1							
	制御システム構成論	1~2	2		1							
	ロボット制御工学特論	1~2	2		1		1					
	マイクロ電気機械システム特論	1~2	2		1							
	医用マイクロ・ナノマシン特論	1~2	2		1							
	サイバネティクス特論	1~2	2		1							
バイオメトリクス特論	1~2	2		1								
電子回路設計特論	1~2	2		1								
無線信号処理特論	1~2	2		1								
マルチスケール計算物質科学特論	1~2	2		1								
高速科学計算特論	1~2	2		1								
相転移計算科学特論	1~2	2		1								
電子状態計算特論	1~2	2		1	1							
電子ディスプレイ材料工学特論	1~2	2		1								
半導体デバイス工学特論	1~2	2		1								
固体電子デバイス工学特論	1~2	2		1								
小計(33科目)	-	0	66	0	22	11	2	0	0	0	0	
科目合	特別研究	1~3	-	-	54	5	5				1	
小計(1科目)	-	-	-	-	54	5	0	5	0	0	1	
合計(106科目)	-	0	189	0	54	38	5	5	0	0	4	

卒業要件及び履修方法
工学研究科工学専攻(博士後期課程)に3年以上在学し、データサイエンス科目および実践科目から2単位以上(うち1単位以上はデータサイエンス科目から修得すること。)、専門科目から6単位以上、合計10単位以上を修得すること。かつ、研究内容に応じた実践的教育、研究の計画と遂行に必要な知識や技能、博士学位論文作成等を指導する科目として特別研究を履修し合格するとともに、学位論文(博士)の審査及び最終試験に合格すること。
ただし、在学期間に関して、特に優れた研究業績を上げた者として工学研究科委員会において認められた者については、次のとおりとする。
①修士課程に2年以上在学し、当該修士課程を修了して入学した者及び修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められて入学した者については、1年以上。
②修士課程において特に優れた業績を上げ、2年未満の在学期間で当該修士課程を修了した者については、当該修士課程における在学期間を含み3年以上。

科目区分	授業科目の名称	記号	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	専任	非常勤	准	助	助		
専門科目 (資源・エネルギー領域)	触媒化学特論	1~2	2		1							
	グリーンケミストリー特論	1~2	2		1							
	応用分析化学特論	1~2	2		1							
	構造物理化学特論	1~2	2		1							
	無機固体化学特論	1~2	2		1							
	工業プロセス化学特論	1~2	2		1							
	エネルギー資源有効利用論	1~2	2		1							
	エネルギー変換化学特論	1~2	2		1							
	機能分子合成特論	1~2	2		1							
	分子集積化学特論	1~2	2		1							
	有機反応化学特論	1~2	2		1							
	高分子材料化学特論	1~2	2									1
	機能性糖鎖化学特論	1~2	2									1
	生物有機合成化学特論	1~2	2		1							
	構造生物化学特論	1~2	2		1	1	1					
	蛋白質構造機能特論	1~2	2		1							
	バイオプロセス特論	1~2	2		1							
	マリンバイオテクノロジー特論	1~2	2									1
	生物機能工学特論	1~2	2		1							
	微生物遺伝子工学特論	1~2	2		1							
	合成生物学特論	1~2	2		1							
	有機材料化学特論	1~2	2		1							
	バイオベース材料特論	1~2	2				1					
	環境システム工学特論	1~2	2		1							
	異相界面化学特論	1~2	2		1							
小計(25科目)	-	0	50	0	11	12	1	0	0	0	3	
専門科目 (先端科学技術領域)	材料組織制御工学特論	1~2	2		1							
	材料組織解析論	1~2	2		1							
	精密加工工学特論	1~2	2		1							
	材料プロセス工学特論	1~2	2		1							
	構造動力学特論	1~2	2		1							
	マルチボディダイナミクス	1~2	2		1		1					
	先端宇宙推進工学特論	1~2	2		1							
	宇宙構造物工学特論	1~2	2		1							
	先端設計工学	1~2	2		1	1						
	流体力学特論	1~2	2		1							
	数理生物学特論	1~2	2		1							
	分子気体力学特論	1~2	2		1							
	ナノシステム特論	1~2	2		1							
	飛行体工学特論	1~2	2		1	1						
	原動機燃焼工学特論	1~2	2		1							
	風車工学特論	1~2	2		1							
	プラズマ物理学特論	1~2	2		1							
	ロボティクス特論	1~2	2		1							
	制御システム構成論	1~2	2		1							
	ロボット制御工学特論	1~2	2		1		1					
	マイクロ電気機械システム特論	1~2	2		1							
	医用マイクロ・ナノマシン特論	1~2	2		1							
	サイバネティクス特論	1~2	2		1							
バイオメトリクス特論	1~2	2		1								
電子回路設計特論	1~2	2		1								
無線信号処理特論	1~2	2		1								
マルチスケール計算物質科学特論	1~2	2		1								
高速科学計算特論	1~2	2		1								
電子状態計算特論	1~2	2		1	1							
電子ディスプレイ材料工学特論	1~2	2		1								
半導体デバイス工学特論	1~2	2		1								
固体電子デバイス工学特論	1~2	2		1								
小計(31科目)	-	0	62	0	19	12	1	0	0	0	0	
科目合	特別研究	1~3	-	-	47	7	7				1	
小計(1科目)	-	-	-	-	47	7	0	7	0	0	1	
合計(100科目)	-	0	189	0	47	40	3	7	0	0	4	

卒業要件及び履修方法
工学研究科工学専攻(博士後期課程)に3年以上在学し、データサイエンス科目および実践科目から2単位以上(うち1単位以上はデータサイエンス科目から修得すること。)、専門科目から6単位以上、合計10単位以上を修得すること。かつ、研究内容に応じた実践的教育、研究の計画と遂行に必要な知識や技能、博士学位論文作成等を指導する科目として特別研究を履修し合格するとともに、学位論文(博士)の審査及び最終試験に合格すること。
ただし、在学期間に関して、特に優れた研究業績を上げた者として工学研究科委員会において認められた者については、次のとおりとする。
①修士課程に2年以上在学し、当該修士課程を修了して入学した者及び修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められて入学した者については、1年以上。
②修士課程において特に優れた業績を上げ、2年未満の在学期間で当該修士課程を修了した者については、当該修士課程における在学期間を含み3年以上。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・ 教育課程充実のため、「品質マネジメント特論」、「防災基盤情報工学特論」、「空間情報工学」及び「異相界面化学特論」の授業科目を追加。
- ・ 三浦政司准教授退職による担当教員変更により、「工学実践プロジェクト」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「教授1」に変更。
- ・ 井澤浩則准教授退職による担当教員変更により、「バイオベース材料特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 岩佐貴史准教授退職による担当教員変更により、「宇宙構造物工学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 松野崇准教授の教授への昇任により、「材料プロセス工学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 田村篤敬准教授の教授への昇任により、「マルチボディダイナミクス」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 西遼佑講師の准教授への昇任により、「先端設計工学」の専任教員等の配置を「教授1」「講師1」から「教授1」「准教授1」に変更。
- ・ 松野隆講師の准教授への昇任により、「飛翔体工学特論」の専任教員等の配置を「教授1」「講師1」から「教授1」「准教授1」に変更。
- ・ 笹岡直人准教授の教授への昇任により、「無線信号処理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任・退職により、「工学教養ゼミナール」、「工学実践ワークショップ」及び「学外連携実習」の専任教員等の配置を「教授44」「准教授10」「兼任・兼任1」から「教授47」「准教授7」「兼任・兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任・退職により、「特別研究」の専任教員等の配置を「教授44」「准教授10」「助教11」「兼任・兼任1」から「教授47」「准教授7」「助教7」「兼任・兼任1」に変更。

【令和5年度】

- ・ 教育課程充実のため、「サイバーセキュリティ特論」、「光情報工学特論」、「環境計画学特論」、「ロボティクス特論」、「相転移計算科学特論」及び「生体機能分子化学特論」の授業科目を追加。
- ・ 櫻井敏彦准教授退職による担当教員変更により、「生物有機合成化学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 菅沼学史准教授退職による担当教員変更により、「グリーンケミストリー特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ **榎田大輔准教授の教授への昇任により、「サイバネティクス特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。**
- ・ 西山正志准教授の教授への昇任により、「視覚メディア処理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任・退職により、「工学教養ゼミナール」、「工学実践ワークショップ」及び「学外連携実習」の専任教員等の配置を「教授47」「准教授7」「兼任・兼任1」から「教授54」「准教授5」「兼任・兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任・退職により、「特別研究」の専任教員等の配置を「教授47」「准教授7」「助教7」「兼任・兼任1」から「教授54」「准教授5」「助教5」「兼任・兼任1」に変更。

【令和6年度】

- ・ 教育課程充実のため、「医用情報処理特論」、「治水砂防論」、「IoT・無線システム特論」の授業科目を追加。
- ・ 小柳淳二准教授退職により後任教員公募中のため、「確率システム論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 伊藤弘道教授退職により後任教員公募中のため、「経営管理工学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 浅井秀子准教授の教授への昇任により、「建築計画学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 佐藤祐介講師の准教授への昇任により、「構造生物化学特論」の専任教員等の配置を「教授1」「講師1」から「教授1」「准教授1」に変更。
- ・ 清水一行准教授の採用により、「材料プロセス工学特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」「准教授1」に変更。
- ・ 星健夫准教授退職による担当教員変更により、「マルチスケール計算物質科学特論」「高速科学計算特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任・退職により、「工学教養ゼミナール」、「工学実践ワークショップ」及び「学外連携実習」の専任教員等の配置を「教授54」「准教授5」「兼任・兼任1」から「教授55」「准教授4」「兼任・兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任・退職により、「特別研究」の専任教員等の配置を「教授54」「准教授5」「兼任・兼任1」から「教授55」「准教授5」「兼任・兼任1」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
1 科目	95 科目	0 科目	96 科目	1 科目 [0]	109 科目 [14]	0 科目 [0]	110 科目 [14]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{96} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考			
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	250,060㎡	0㎡	0㎡	250,060㎡	その他のうち、附属病院 51,492㎡			
	運動場用地	123,946㎡	0㎡	0㎡	123,946㎡				
	小計	374,006㎡	0㎡	0㎡	374,006㎡				
	その他	9,313,536㎡	0㎡	0㎡	9,313,536㎡				
	合計	9,687,542㎡	0㎡	0㎡	9,687,542㎡				
(2) 校舎	専用	133,228㎡	0㎡	0㎡	133,228㎡	大学全体			
	(133,228㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(133,228㎡)	別途附属病院 73,046㎡			
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	110室	145室	634室	3室 (補助職員 人)	1室 (補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室数		大学全体			
	工学研究科 工学専攻(博士後期課程)			97 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	購入・除籍等による増減(6)	
	工学研究科工学専攻	692,833 [180,121]	19,518 [8,945]	6,973 [5,401]	5,521	32,734	32		購入・除籍等による増減(5)
		706,866 [187,960]	19,356 [8,785]	6,213 [4,667]	6,473				
		705,413 [187,767]	19,290 [8,829]	6,182 [4,723]	6,414				
		708,799 [192,137]	19,250 [8,884]	6,169 [4,741]	6,344				
(692,833 [180,121])	(19,518 [8,945])	(6,973 [5,401])	(5,521)	(32,734)	(32)	購入・除籍等による増減(4)			
(706,866 [187,960])	(19,356 [8,785])	(6,213 [4,667])	(6,473)						
(705,413 [187,767])	(19,290 [8,829])	(6,182 [4,723])	(6,414)						
(708,799 [192,137])	(19,250 [8,884])	(6,169 [4,741])	(6,344)						
計	692,833 [180,121]	19,518 [8,945]	6,973 [5,401]	5,521	32,734	32	購入・除籍等による増減(4)		
	(692,833 [180,121])	(19,518 [8,945])	(6,973 [5,401])	(5,521)				(32,734)	(32)
(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		設備整備等による増(6) 設備整備等による増(5) 設備整備等による増(4)		
	6,015㎡		844		668,639				
			805						
			789						
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	3,322㎡		武道場、弓道場、陸上競技場、野球場、テニスコート、ラグビー兼サッカー場、水泳プール						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	〇〇大学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	2
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考			
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度					
地域学部	4	170	-	680	-	1.10	1.08	-	平成16	-				
地域学科	4	170	-	680	学士(地域学)	1.10	1.08	-	平成29	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地				
地域創造コース	4	60	-	240	学士(地域学)	1.16	1.12	-	平成29	同上				
人間形成コース	4	55	-	220	学士(地域学)	1.06	1.05	-	平成29	同上				
国際地域文化コース	4	55	-	220	学士(地域学)	1.07	1.05	-	平成29	同上				
医学部	6	105	2年次5	652	-	1.04	1.02	-	昭和24	-				
	4	160	-	640	-	1.04	1.03	-	昭和24	-				
医学科	6	105	2年次5	652	学士(医学)	1.04	1.02	令和6	昭和24	鳥取県米子市西町86番地	令和6年度から収容定員増延長			
生命科学科	4	40	-	160	学士(生命科学)	1.07	1.07	-	平成2	同上				
保健学科	4	120	-	480	-	1.03	1.02	-	平成11	同上				
看護学専攻	4	80	-	320	学士(看護学)	1.01	1.01	-	平成11	同上				
検査技術科学専攻	4	40	-	160	学士(保健学)	1.06	1.05	-	平成11	同上				
工学部	4	450	-	1,800	-	1.08	1.04	-	昭和40	-				
機械物理系学科	4	115	-	460	学士(工学)	1.09	1.05	-	平成27	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地				
電気情報系学科	4	125	-	500	学士(工学)	1.09	1.04	-	平成27	同上				
化学バイオ系学科	4	100	-	400	学士(工学)	1.06	1.04	-	平成27	同上				
社会システム土木系学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.08	1.05	-	平成27	同上				
農学部	6	35	-	210	-	1.08	1.07	-	昭和24	-				
	4	220	-	880	-	1.04	1.03	-	昭和24	-				
生命環境農学科	4	220	-	880	学士(農学)	1.04	1.03	-	平成29	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地				
共同獣医学科	6	35	-	210	学士(獣医学)	1.08	1.07	-	平成25	同上				
大学全体	4	1,000	-	4,000		1.07	1.04							
	6	140	2年次5	862		1.05	1.03							

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<工学研究科 工学専攻（博士後期課程）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】		【令和4年度】	【令和5年度】	【令和6年度】
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
専任	教授	岩井 儀雄 <令和4年4月> 博士(工学)	岩井 儀雄 <令和4年4月> 博士(工学)	岩井 儀雄 <令和4年4月> 博士(工学)
		データサイエンス特論Ⅰ データサイエンス特論Ⅱ 工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 知能システム特論 特別研究	データサイエンス特論Ⅰ データサイエンス特論Ⅱ 工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 知能システム特論 特別研究	データサイエンス特論Ⅰ データサイエンス特論Ⅱ 工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 知能システム特論 特別研究
専任	教授	桑野 将司 <令和4年4月> 博士(工学)	桑野 将司 <令和4年4月> 博士(工学)	桑野 将司 <令和4年4月> 博士(工学)
		データサイエンス特論Ⅰ データサイエンス特論Ⅱ 工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 交通システム工学 特別研究	データサイエンス特論Ⅰ データサイエンス特論Ⅱ 工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 交通システム工学 特別研究	データサイエンス特論Ⅰ データサイエンス特論Ⅱ 工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 交通システム工学 特別研究
専任	教授	伊福 伸介 <令和4年4月> 博士(農学)	伊福 伸介 <令和4年4月> 博士(農学)	伊福 伸介 <令和4年4月> 博士(農学)
		ベンチャービジネス特論 工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 有機材料化学特論 特別研究	ベンチャービジネス特論 工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 有機材料化学特論 バイオベース材料特論 特別研究	ベンチャービジネス特論 工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 有機材料化学特論 バイオベース材料特論 特別研究
専任	教授	吉村 和之 <令和4年4月> 博士(工学)	吉村 和之 <令和4年4月> 博士(工学)	吉村 和之 <令和4年4月> 博士(工学)
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 数理情報科学特論 特別研究	工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 数理情報科学特論 特別研究	工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 数理情報科学特論 特別研究
専任	教授	川村 尚生 <令和4年4月> 博士(工学)	川村 尚生 <令和4年4月> 博士(工学)	川村 尚生 <令和4年4月> 博士(工学)
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 計算機ソフトウェア特論 特別研究	工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 計算機ソフトウェア特論 特別研究	工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 計算機ソフトウェア特論 特別研究
専任	教授	村田 真樹 <令和4年4月> 博士(工学)	村田 真樹 <令和4年4月> 博士(工学)	村田 真樹 <令和4年4月> 博士(工学)
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 自然言語処理論 特別研究	工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 自然言語処理論 特別研究	工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 自然言語処理論 特別研究
専任	教授	近藤 克哉 <令和4年4月> 博士(工学)	近藤 克哉 <令和4年4月> 博士(工学)	近藤 克哉 <令和4年4月> 博士(工学)
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 画像計測工学特論 特別研究	工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 画像計測工学特論 特別研究	工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 画像計測工学特論 特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等									
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	三柴 数 <令和4年4月> 博士(工学)									
		映像情報計算特論			映像情報計算特論			映像情報計算特論			映像情報計算特論
専	准教授	村上 仁一 <令和4年4月> 博士(工学)									
		機械翻訳特論			機械翻訳特論			機械翻訳特論			機械翻訳特論
専	准教授	清水 忠昭 <令和4年4月> 博士(工学)									
		ヒューマンインタフェース特論			ヒューマンインタフェース特論			ヒューマンインタフェース特論			ヒューマンインタフェース特論
専	准教授	小柳 淳二 <令和4年4月> 博士(情報学)	専	准教授	小柳 淳二 <令和4年4月> 博士(情報学)	専	准教授	小柳 淳二 <令和4年4月> 博士(情報学)	専	准教授	
		確率システム論			確率システム論			確率システム論			
専	准教授	土屋 哲 <令和4年4月> 博士(工学)									
		地域経営工学特論									
専	准教授	浅井 秀子 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	浅井 秀子 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	浅井 秀子 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	浅井 秀子 <令和4年4月> 博士(工学)
		建築計画学特論			建築計画学特論			建築計画学特論			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 建築計画学特論 特別研究
専	准教授	梶川 勇樹 <令和4年4月> 博士(工学)									
		流域土砂管理			流域土砂管理			流域土砂管理			流域土砂管理
専	准教授	中村 公一 <令和4年4月> 博士(工学)									
		地盤情報システム工学			地盤情報システム工学			地盤情報システム工学			地盤情報システム工学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	河野 勝宣 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	河野 勝宣 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	河野 勝宣 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	河野 勝宣 <令和4年4月> 博士(工学)
		岩盤物性特論			岩盤物性特論			岩盤物性特論			
専	准教授	塩崎 一郎 <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授	塩崎 一郎 <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授	塩崎 一郎 <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授	塩崎 一郎 <令和4年4月> 博士(理学)
		固体地球科学特論			固体地球科学特論			固体地球科学特論			
専	准教授	菅沼 学史 <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授	菅沼 学史 <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授		専	准教授	
		グリーンケミストリー特論			グリーンケミストリー特論						
専	准教授	辻 悦司 <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授	辻 悦司 <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授	辻 悦司 <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授	辻 悦司 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用分析化学特論			応用分析化学特論			応用分析化学特論			
専	准教授	薄井 洋行 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	薄井 洋行 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	薄井 洋行 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	薄井 洋行 <令和4年4月> 博士(工学)
		工業プロセス化学特論			工業プロセス化学特論			工業プロセス化学特論			
専	准教授	西村 亮 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	西村 亮 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	西村 亮 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	西村 亮 <令和4年4月> 博士(工学)
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 エネルギー資源有効利用論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 エネルギー資源有効利用論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 エネルギー資源有効利用論 特別研究			
専	准教授	稲葉 央 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	稲葉 央 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	稲葉 央 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	稲葉 央 <令和4年4月> 博士(工学)
		分子集積化学特論			分子集積化学特論			分子集積化学特論			
専	准教授	櫻井 敏彦 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	櫻井 敏彦 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授		専	准教授	
		生物有機合成化学特論			生物有機合成化学特論						

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等									
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	日野 智也 <令和4年4月> 博士(理学)									
		構造生物化学特論			構造生物化学特論			構造生物化学特論			構造生物化学特論
専	准教授	八木 寿梓 <令和4年4月> 博士(再生医科学)									
		バイオプロセス特論			バイオプロセス特論			バイオプロセス特論			バイオプロセス特論
専	准教授	鈴木 宏和 <令和4年4月> 博士(工学)									
		生物機能工学特論			生物機能工学特論			生物機能工学特論			生物機能工学特論
専	准教授	原田 尚志 <令和4年4月> 博士(理学)									
		合成生物学特論			合成生物学特論			合成生物学特論			合成生物学特論
専	准教授	井澤 浩則 <令和4年4月> 博士(工学)									
		バイオベース材料特論									
専	准教授	高部 祐剛 <令和4年4月> 博士(工学)									
		環境システム工学特論			環境システム工学特論			環境システム工学特論			環境システム工学特論
専	准教授	音田 哲彦 <令和4年4月> 博士(工学)									
		材料組織解析論			材料組織解析論			材料組織解析論			材料組織解析論
専	准教授	松野 崇 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	松野 崇 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	松野 崇 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	松野 崇 <令和4年4月> 博士(工学)
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 材料プロセス工学特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 材料プロセス工学特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 材料プロセス工学特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 材料プロセス工学特論 特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等									
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	田村 篤敬 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	田村 篤敬 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	田村 篤敬 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	田村 篤敬 <令和4年4月> 博士(工学)
		マルチボディダイナミクス			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 マルチボディダイナミクス 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 マルチボディダイナミクス 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 マルチボディダイナミクス 特別研究
専	准教授	岩佐 貴史 <令和4年4月> 博士(工学)									
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 宇宙構造物工学特論 特別研究									
専	准教授	中井 唱 <令和4年4月> 博士(理学)									
		数理生物学特論			数理生物学特論			数理生物学特論			数理生物学特論
専	准教授	土井 俊行 <令和4年4月> 博士(工学)									
		分子気体力学特論			分子気体力学特論			分子気体力学特論			分子気体力学特論
専	准教授	小田 哲也 <令和4年4月> 博士(工学)									
		原動機燃焼工学特論			原動機燃焼工学特論			原動機燃焼工学特論			原動機燃焼工学特論
専	准教授	竹森 史暁 <令和4年4月> 博士(工学)									
		制御システム構成論			制御システム構成論			制御システム構成論			制御システム構成論
専	准教授	松永 忠雄 <令和4年4月> 博士(工学)									
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 医用マイクロ・ナノマシン特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 医用マイクロ・ナノマシン特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 医用マイクロ・ナノマシン特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 医用マイクロ・ナノマシン特論 特別研究
専	准教授	榎田 大輔 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	榎田 大輔 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	榎田 大輔 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	榎田 大輔 <令和4年4月> 博士(工学)
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 サイバネティクス特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 サイバネティクス特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 サイバネティクス特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 サイバネティクス特論 特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	笹岡 直人 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	笹岡 直人 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	笹岡 直人 <令和4年4月> 博士(工学)
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 無線信号処理特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 無線信号処理特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 無線信号処理特論 特別研究
専	准教授	星 健夫 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	星 健夫 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	星 健夫 <令和4年4月> 博士(工学)
		工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 マルチスケール計算物質科学特論 高速科学計算特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 マルチスケール計算物質科学特論 高速科学計算特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 マルチスケール計算物質科学特論 高速科学計算特論 特別研究
専	准教授	榑原 寛史 <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授	榑原 寛史 <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授	榑原 寛史 <令和4年4月> 博士(理学)
		電子状態計算特論			電子状態計算特論			電子状態計算特論
専	准教授	阿部 友紀 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	阿部 友紀 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	阿部 友紀 <令和4年4月> 博士(工学)
		半導体デバイス工学特論			半導体デバイス工学特論			半導体デバイス工学特論
専	講師	徳久 雅人 <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	徳久 雅人 <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	徳久 雅人 <令和4年4月> 博士(工学)
		情報システム工学特論			情報システム工学特論			情報システム工学特論
専	講師	佐藤 裕介 <令和4年4月> 博士(理学)	専	講師	佐藤 裕介 <令和4年4月> 博士(理学)	専	講師	佐藤 裕介 <令和4年4月> 博士(理学)
		構造生物化学特論			構造生物化学特論	専	准教授	佐藤 裕介 <令和4年4月> 博士(理学)
		構造生物化学特論			構造生物化学特論			構造生物化学特論
専	講師	西 遼佑 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	西 遼佑 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	西 遼佑 <令和4年4月> 博士(工学)
		先端設計工学			先端設計工学			先端設計工学
専	講師	松野 隆 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	松野 隆 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	松野 隆 <令和4年4月> 博士(工学)
		飛翔体工学特論			飛翔体工学特論			飛翔体工学特論
		飛翔体工学特論			飛翔体工学特論			飛翔体工学特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	講師	中谷 真太郎 <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	中谷 真太郎 <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	中谷 真太郎 <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	中谷 真太郎 <令和4年4月> 博士(工学)
		ロボット制御工学特論			ロボット制御工学特論			ロボット制御工学特論			ロボット制御工学特論
専	助教	長曽我部まどか <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	長曽我部まどか <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	長曽我部まどか <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	長曽我部まどか <令和4年4月> 博士(工学)
		特別研究			地域経営工学特論			地域経営工学特論			地域経営工学特論
専	助教	森山 卓 <令和4年4月> 博士(数理学)	専	助教	森山 卓 <令和4年4月> 博士(数理学)						
		特別研究			特別研究						
専	助教	南野(高部)友香 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	南野(高部)友香 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	南野(高部)友香 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	南野(高部)友香 <令和4年4月> 博士(工学)
		特別研究			品質マネジメント特論			品質マネジメント特論			品質マネジメント特論
専	助教	和田 孝志 <令和4年4月> 博士(農学)	専	助教	和田 孝志 <令和4年4月> 博士(農学)	専	准教授	和田 孝志 <令和5年5月> 博士(農学)	専	准教授	和田 孝志 <令和5年5月> 博士(農学)
		特別研究			特別研究			特別研究			治水砂防論 特別研究
専	助教	野口 竜也 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	野口 竜也 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	野口 竜也 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	野口 竜也 <令和4年4月> 博士(工学)
		特別研究			空間情報工学			空間情報工学			空間情報工学
専	助教	道見 康弘 <令和4年4月> 博士(環境科学)	専	准教授	道見 康弘 <令和4年4月> 博士(環境科学)	専	准教授	道見 康弘 <令和4年4月> 博士(環境科学)	専	准教授	道見 康弘 <令和4年4月> 博士(環境科学)
		特別研究			異相界面化学特論			異相界面化学特論			異相界面化学特論
専	助教	本郷 邦広 <令和4年4月> 博士(再生医科学)	専	助教	本郷 邦広 <令和4年4月> 博士(再生医科学)	専	助教	本郷 邦広 <令和4年4月> 博士(再生医科学)	専	助教	本郷 邦広 <令和4年4月> 博士(再生医科学)
		特別研究			特別研究			特別研究			特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	助教	衣 立夫 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	衣 立夫 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	衣 立夫 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	衣 立夫 <令和4年4月> 博士(工学)
		特別研究			特別研究			特別研究			特別研究
専	助教	向坊 恭介 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	向坊 恭介 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	向坊 恭介 <令和4年4月> 博士(工学)			
		特別研究			特別研究			特別研究			
専	助教	石川 功 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	石川 功 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	石川 功 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	石川 功 <令和4年4月> 博士(工学)
		特別研究			特別研究			特別研究			特別研究
専	助教	赤岩 和明 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	赤岩 和明 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	赤岩 和明 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	赤岩 和明 <令和4年4月> 博士(工学)
		特別研究			特別研究			特別研究			特別研究
			専	准教授	江本 久雄 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	江本 久雄 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	江本 久雄 <令和4年4月> 博士(工学)
					防災基盤情報工学特論			防災基盤情報工学特論			防災基盤情報工学特論
						専	講師	本宮 潤一 <令和4年9月> 博士(工学)	専	講師	本宮 潤一 <令和4年9月> 博士(工学)
								マルチボディダイナミクス			マルチボディダイナミクス
						専	教授	瀧 浩樹 <令和4年10月> 博士(地球環境科学)	専	教授	瀧 浩樹 <令和4年10月> 博士(地球環境科学)
								工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 相転移計算科学特論 特別研究 マルチスケール計算物質科学 特論			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 相転移計算科学特論 特別研究 マルチスケール計算物質科学 特論
			専	准教授	東野 正幸 <令和4年10月> 博士(工学)	専	准教授	東野 正幸 <令和4年10月> 博士(工学)	専	准教授	東野 正幸 <令和4年10月> 博士(工学)
					サイバーセキュリティ特論			サイバーセキュリティ特論			サイバーセキュリティ特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
						専	教授	宮本 善和 <令和4年12月> 博士(工学)	専	教授	宮本 善和 <令和4年12月> 博士(工学)
								工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 環境計画学特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 環境計画学特論 特別研究
						専	講師	赤松 允順 <令和4年12月> 博士(工学)	専	講師	赤松 允順 <令和4年12月> 博士(工学)
								ハ付ベース材料特論			ハ付ベース材料特論
						専	教授	花島 慎弥 <令和5年1月> 博士(理学)	専	教授	花島 慎弥 <令和5年1月> 博士(理学)
								工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 生物有機合成化学特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 生物有機合成化学特論 特別研究
						専	教授	辻田 勝吉 <令和5年4月> 博士(工学)	専	教授	辻田 勝吉 <令和5年4月> 博士(工学)
								工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 ロボティクス特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 ロボティクス特論 特別研究
						専	教授	吉川 直一 <令和5年4月> 博士(工学)	専	教授	吉川 直一 <令和5年4月> 博士(工学)
								工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 光情報工学特論 特別研究			工学教養ゼミナール 工学実践ワークショップ 学外連携実習 光情報工学特論 特別研究
						専	准教授	青木 工太 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	青木 工太 <令和6年4月> 博士(工学)
								医用情報処理特論			
						専	准教授	清水 一行 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	清水 一行 <令和6年4月> 博士(工学)
								材料プロセス工学特論			
						専	教授	齋藤 健太郎 <令和6年1月> 博士(工学)	専	教授	齋藤 健太郎 <令和6年1月> 博士(工学)
								IoT・無線システム特論			

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・令和3年4月1日付けで、田村篤敬准教授が教授に昇任。
- ・令和3年6月1日付けで、西遼佑講師、松野隆講師、並びに野口竜也助教が准教授に昇任。
- ・令和3年8月31日付けで、土屋哲准教授が退職。
- ・令和3年9月1日付けで、南野友香助教が准教授に昇任。
- ・令和3年9月30日付けで、三浦政司准教授（兼任）が退職。
- ・令和3年10月1日付けで、道見康弘助教が准教授に昇任。
- ・令和4年2月1日付けで、笹岡直人准教授が教授に昇任。
- ・令和4年3月31日付けで、井澤浩則准教授並びに岩佐貴史准教授が退職。
- ・令和4年4月1日付けで、松野崇准教授が教授に昇任、長曾我部まどか助教が准教授に昇任。
- ・令和4年4月1日付けで、江本久雄准教授を専任教員として採用。

【令和5年度】

- ・令和4年9月1日付けで、本宮潤一講師を専任教員として採用。
- ・令和4年10月1日付けで、灘浩樹教授並びに東野正幸准教授を専任教員として採用。
- ・令和4年10月1日付けで、西山正志准教授並びに榎田大輔准教授が教授に昇任。
- ・令和4年12月1日付けで、宮本善和教授並びに赤松允顕講師を専任教員として採用。
- ・令和5年1月1日付けで、花鳥慎弥教授を専任教員として採用。
- ・令和5年3月31日付けで、櫻井敏彦准教授、菅沼学史准教授並びに森山卓助教が退職。
- ・令和5年4月1日付けで、辻田勝吉教授並びに吉川宣一教授を専任教員として採用。
- ・令和5年5月1日付けで、和田孝志助教が准教授に昇任。

【令和6年度】

- ・令和5年7月30日付けで、星健夫准教授が退職。
- ・令和6年1月1日付けで、齋藤健太郎教授を専任教員として採用。
- ・令和6年4月1日付けで、浅井秀子准教授が教授に昇任。
- ・令和6年4月1日付けで、清水一行准教授、高江恭平准教授、青木工太准教授を専任教員として採用。
- ・令和6年3月31日付けで、向坊恭介助教、伊藤弘道教授、小柳淳二准教授が退職。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**原則としてAC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号)により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
44	39	5	11	99	0	55	39	4	5	103	0
(47)	(40)	(3)	(7)	(97)	(0)						
研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
うち教授数			うち教授数								
54	44	34	0			60	55	39	0		
(54)	44	(36)	(0)			(6)	(11)	(5)	(0)		
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
55	39	4	5	103	0	55	39	4	5	103	0
[11]	[0]	[Δ1]	[Δ6]	[4]	[0]	[11]	[0]	[Δ1]	[Δ6]	[4]	[0]
研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
うち教授数			うち教授数								
60	55	39	0			60	55	39	0		
(6)	(11)	(5)	(0)			(6)	(11)	(5)	(0)		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要審査済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 []内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 []内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、 定年を延長して採用している 教員数	完成年度時(上記(C))の教員うち、 定年を延長して採用する 教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{103}{99} = \boxed{104.04} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{0}{103} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	准教授	土屋 哲	R3.8	選択	地域経営工学特論	①	R3.8.31退職のため就任辞退（4）
2	准教授	井澤 浩則	R4.3	選択	バイオベース材料特論	①	R4.3.31退職のため就任辞退（4）
3	准教授	岩佐 貴史	R4.3	選択	宇宙構造物工学特論	①	R4.3.31退職のため就任辞退（4）
合計（D）						後任補充状況の集計（E）	
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
3	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	3	科目
		必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	准教授	櫻井 敏彦	R5.3	選択	生物有機合成化学特論	①	他大学採用のため(5)
2	准教授	菅沼 学史	R5.3	選択	グリーンケミストリー特論	①	他大学採用のため(5)
3	助教	森山 卓	R5.3	必修	特別研究	①	他大学採用のため(5)
4	准教授	星 健夫	R5.7	選択	工学教養ゼミナール	①	他機関採用のため(6)
				選択	工学実践ワークショップ	①	
				選択	学外連携実習	①	
				選択	マルチスケール計算物質科学特論	①	
				選択	高速科学計算特論	①	
5	助教	向坊 恭介	R6.3	必修	特別研究	①	一身上の都合
6	教授	伊藤 弘道	R6.3	選択	工学教養ゼミナール	③	他大学採用のため(6)
				選択	工学実践ワークショップ	③	
				選択	学外連携実習	③	
				選択	経営管理工学特論	③	
7	准教授	小柳 淳二	R6.3	必修	特別研究	③	他大学採用のため(6)
				選択	確率システム論	③	
合計（F）						後任補充状況の集計（G）	
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
7	人	必修	4	科目	必修	3	科目
		選択	12	科目	選択	7	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	16	科目	計	10	科目
		必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
10 人	必修	4 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	1 科目
	選択	15 科目	選択	10 科目	選択	0 科目	選択	5 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	19 科目	計	13 科目	計	0 科目	計	6 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{99} = 10.1\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

4 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任辞退並びに辞任の教員が担当予定であった授業科目は、専任教員が担当するため、学生の履修に影響はない。学生へは、指導教員から説明し、周知した。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和3年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5) (6)」と記載してください。
 - 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学研究科 工学専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 10px; display: inline-block;">該当なし</div>	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取大学工学部、大学院工学研究科及び持続性社会創生科学研究科工学専攻教育方法改善委員会 ※FD・SDの企画立案実施のみを目的とした委員会は設置していないが、工学部(工学研究科)で、月に2回開催する「企画運営会議(工学部長(研究科長)及び副学部長(副研究科長(3))等参加)」において、必要に応じてFD・SDについて検討し、工学部(工学研究科)独自のSD研修会等を実施している。 <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>①2023年4月28日、②9月14日、③3月22日(メール会議) 計3回開催 ①は8名の委員出席、②は9名の委員が出席、③は9名の委員が出席。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育方法改善のための調査, 研究に関すること。 学生による授業評価の実施及び評価結果のフィードバックに関すること。 その他教育方法の改善に関すること。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>ダイバーシティセミナー、ハラスメント防止研修、研究倫理セミナー、FD・SD研修会</p> <p>b 実施方法</p> <p>セミナー、研修会、講演会</p> <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>ダイバーシティコミュニケーションセミナー R5.12.7(7名) ダイバーシティセミナー R5.6.23-7.22(12名)、ハラスメント防止研修R5.10.2-12.28(78名) 研究倫理セミナー R5.11.28-12.28(103名)、全学FD/SD講演会 R5.12.1(30名)</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>実施結果を踏まえ、各教員が授業の質及び修学環境の向上に取り組んでいる。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施有(1月):教育方法改善委員会が学生に対し「教育アンケート」を、毎年1月に実施している。 <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果は、委員を通じて教員へ還流している。WEB、学生への公開はしていない。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制	
a 委員会の設置状況	
(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)	
b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)	
c 委員会の審議事項等	該当なし
d その他	
② 審議状況	
a 審議した内容	
記入例)	
・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容	
・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容	
b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況	
c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況	

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見	
・ 計画どおり実施している。引き続き、設置の趣旨・目的に沿って教育・研究活動を実施することとしている。	
② 自己点検・評価報告書	
a 公表 (予定) 時期	
・ 未定	
b 公表方法	
・ 大学ホームページ上に公開予定	
③ 認証評価を受ける計画	
・ 令和3年度に大学機関別認証評価を受審し、適合認定された。	

(注) ・ 設置時の計画の変更 (又は未実施) の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。